



患サポ通信

— ささえちゃん便り —

第 132 号



若葉が萌ゆる季節となりました。新年度号は、当センターのご案内とともに、新設『炎症性腸疾患センター、希少がん・サルコーマセンター』の紹介を中心にお届けいたします。

患者サポートセンターは下記の体制で取り組んでいます

事前診察予約

(前方連携)

TEL:024-547-1074
FAX:024-547-1075

紹介患者さんの円滑な診療に資するため、紹介元医療機関から当院への**事前診察予約**の申し込みを受け付けています

後方連携

TEL:024-547-1885
FAX:024-547-1242

ご紹介いただいた患者さんが、適切な医療により落ち着いたところで、紹介元医療機関やかかりつけ医に**逆紹介**できるように支援いたします

入院前面談

TEL:024-547-1579

入院前から患者さんへの支援を実施することにより、円滑な入院医療の提供と患者さんの抱える**身体的、社会的、精神的**問題を把握し、早期から**多職種と連携して適切な療養支援**へつなぎます

退院支援

TEL:024-547-1073
FAX:024-547-1056

患者さん・ご家族の主体的な参加のもと、社会資源の調整を行い、退院後も自分らしい生活が送れるように支援します。

医療相談

TEL:024-547-1026

以下の相談に対応しています

- ・医療費に関すること
- ・公費負担制度に関すること
- ・身体障害者手帳に関すること
- ・社会保険等の各種給付に関すること
- ・交通事故による医療費に関すること
- ・患者苦情処理に関すること
- ・メディエーションが必要な相談に関すること
- ・その他

転院受入

(病床管理)

TEL:024-547-1054
FAX:024-547-1056

入院決定とベッドコントロール、他病院からの**転院受入**の調整を担当しています

よくよく
お願ひします

新メンバー紹介



4月1日付けで医療連携・相談室長兼患者サポートセンター副部長を拝命しました佐竹 京（さたけ たかし）と申します。医大勤務は2回目となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

当部署は、患者の皆様が入院等をされるに当たっての窓口であり、当病院の最前線となります。患者の皆様安心して、入退院していただくために日々、職員とともに取り組んでまいりますので、皆さんの声をお聞かせいただければと思います。

令和7年4月1日より附属病院内に東北地区では初となる



「希少がん・サルコーマセンター」が設置されました！

「希少がん」とは10万人あたり6人未満のとてもまれな「がん」のことであり、代表的な希少がんとして肉腫（サルコーマ）があります。「サルコーマ」は骨や筋肉、神経、血管、脂肪などに発生するがん（悪性腫瘍）の総称であり、専門家が少なく、診断や治療が困難であることが問題となっています。治療に際して複数の診療科の協力が必要なことも多いため、当センターでは、多くの診療科から希少がんやサルコーマの診療に携わる専門医が参集し、チーム診療体制を構築しています。具体的な活動として希少がん・サルコーマホットラインの設置、希少がん・サルコーマ外来、希少がん・サルコーマボードの開催、症例の登録などを実施します。詳細についてはホームページをご参照ください。（<https://www.fmu.ac.jp/byoin/new/sosiki/kisyogan.html>）

当センターでは、「忘れられたがん」とも呼ばれる希少がん・サルコーマに対して、最善の治療を提供できるよう取り組んでいきます。もし、希少がん・サルコーマの診断や治療についてお困りの場合、どうぞお気軽にご相談ください。

当センターの初診予約は、従来通り各医療機関より当院患者サポートセンターを介して、整形外科あるいは各診療科へお申し込み下さい。判断に迷われる場合は、受診希望診療科は空欄のまま当センター宛てにお申込みいただければ、当方で紹介状の内容を確認して振り分けます。

文責：希少がん・サルコーマセンター 箱崎 道之

炎症性腸疾患センター（IBD センター）が設置されました！

・はじめに

2025年4月1日、炎症性腸疾患（Inflammatory Bowel Disease: IBD）に関連する専門職が集まり、炎症性腸疾患センター（IBD センター）を開設いたしました。IBD診療の高度化・複雑化に対応した医療人を育成することで福島県のIBD診療に貢献し、長期的視野に基づいた診療体制の充実に努め、IBD克服を目指した研究活動も展開して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

・炎症性腸疾患（IBD）について

IBDの代表的疾患である潰瘍性大腸炎の患者さんは約22万人、クローン病は約7万人と報告され（2014年全国疫学調査）、年々増加しています。その根治は未だ困難ですが、新薬が多く登場したことで治療法は大きく進歩し、以前は困難であった患者さんでも多くで寛解維持が可能になりました。また、IBDは若年で発症することが多く、長期にわたって治療が必要となるため、患者さん一人一人のライフスタイルや価値観に寄り添った診療を心がけています。

・当センターの受診方法

初診予約は従来どおり、各医療機関より当院患者サポートセンターを介して、消化器内科・消化管外科・小児科（中学生以下）へ申込みをお願い致します。患者さんは福島県全域・宮城県々南から広く来院されております。紹介目的は、持続する下痢でIBDが疑われる方への精査、初期治療の効果が不十分な患者さんへの追加治療、手術、転居に伴う治療継続など様々です。

IBDセンター週間予定

診療曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科（消化器内科）	初診・再診	再診	初診・再診	初診・再診	再診
外科（消化管外科）	初診	初診	初診・再診	初診・再診	初診
小児科	-	初診・再診	初診・再診	-	-

文責：IBD センター
鬼澤 道夫



【発行元】公立大学法人福島県立医科大学附属病院 患者サポートセンター

〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL:024-547-1818(直通) Email:tourokui@fmu.ac.jp